

市政記者各位

Press Release No. 1

令和5年5月19日

## 2023年（第33回）福岡アジア文化賞

FUKUOKA PRIZE 2023



### 受賞者発表

アジアの学術研究や芸術・文化の分野で顕著な業績をあげた方を顕彰する福岡アジア文化賞。  
第33回目となる今年の受賞者は、この3名の方々に決定しました。



大賞 トンチャイ・ウィニッチャクン氏（65歳） Thongchai WINICHAKUL

歴史学者

**民主主義と市民社会の発展に貢献し、知識人の範となる歴史学者**

- ・地図の作成と利用のされ方に着目し、近代的な国家と国民がいかにかに確かな実態として人々の心の中に入り込み、存在するようになったのかを研究し、世界の人文・社会科学に大きな影響を与えた
- ・代表作『地図がつくったタイ』は東南アジアを越えてナショナリズム研究に大きく貢献。最新の著書では新たな歴史学の方向性と可能性に挑んでいる
- ・タイの学生や市民の政治意識や活動を支え導き、大学と社会をつなぎ民主主義と市民社会を発展させるため貢献し続けている



学術研究賞 カターリヤ・ウム氏（62歳） Khatharya UM

政治学者・東南アジア研究者

**移民や難民の人々の苦境に光を当て、現代世界の課題に挑む政治学者**

- ・祖国カンボジアの悲劇の歴史を掘り下げつつ、移民や難民の人々の苦境に光を当て、鋭い分析でグローバル研究の新たな領域を開拓
- ・学問の自由と発展を促す教育を目指して教鞭を執り、次世代の育成に力を注ぐ優れた教育者でもある
- ・平和で公正な世界の実現を目指し、国際的な共同研究に邁進。協力して知を革新し、国境を越えた市民の絆の構築に尽力している



芸術・文化賞 張 律（チャン・リュル）氏（60歳） ZHANG Lu

映画監督

**国籍・国境を越えた比類なき「東アジア映画」を創り続ける映画監督**

- ・アジア各国のスタッフ・キャストと協働しながら中国・韓国・日本の地方都市を舞台に据えて、国籍・国境を越えた独創的な作品を創り続けている
- ・映画人との越境的なコラボレーションを通じて、その作品世界においても異文化の融和や共生のビジョンを表現し、世界的に高く評価されている
- ・三部作『群山：鷺鳥を詠う』『福岡』『柳川』は、多国籍の映画人が創り上げた全く新しい「東アジア映画」である

授賞式は9月12日(火)に開催予定です(次頁参照)

## 2023年（第33回）福岡アジア文化賞 公式行事日程（予定）

令和5年5月19日時点

行 事	日 程	場 所	内 容
授賞式	9月12日(火) ※18:15～19:45 (予定)	福岡国際会議場 (メインホール)	授賞式典 ※当日：会場参加 ※後日アーカイブ配信あり
市民フォーラム	<大 賞> トンチャイ・ウニツチャクン氏 9月15日(金) 夜	アクロス福岡 (国際会議場)	受賞者による市民を対象とした講演会等 ※当日：会場参加 ※後日アーカイブ配信あり
	<学術研究賞> カタールリヤ・ウム氏 9月14日(木) 夜	アクロス福岡 (国際会議場)	
	<芸術・文化賞> チャン・リュル氏 9月13日(水) 夜	市内映画館 ※調整中	
学校訪問	9月13日(水) ～ 9月15日(金) ※日程調整中	福岡市内の 中学校・高校等	受賞者が学校を訪問し、 生徒と交流

※申込みは、授賞式は7月3日、市民フォーラムは7月18日開始予定です（事前申込制）

【問い合わせ先】 総務企画局国際部アジア連携課（福岡アジア文化賞委員会事務局）  
 担当：長岡、円城寺 Tel：092-711-4930 Fax：092-735-4130  
 福岡アジア文化賞 URL <https://fukuoka-prize.org/>  
 写真素材ダウンロード URL <https://fukuoka-prize.org/presses/materials>

## 大賞 トンチャイ・ウィニッチャクン

### 【贈賞理由】

トンチャイ・ウィニッチャクン氏は、地図というビジュアルな資料の作成と利用のされ方に着目し、近代的な国家と国民がいかに確かな実態として人々の心の中に入り込み、存在するようになったかについてアジア発の問題提起を行い、世界の人文・社会科学に大きな影響を与えた。国家と国民が創られたものであるゆえに両者の関係をより良く作りなおしてゆくことが可能であることを信じ、研究成果・知見を社会改革のために活用することを真摯に心がけてきた。また大学と社会をつなぎ、次の世代の若者と子どもたちのために、より良い社会を作ることに貢献してきた。

トンチャイ氏は1957年にタイのバンコク都で生まれ育った。大学教育をバンコクで、大学院教育をオーストラリアで受けた。1988年から3年間タマサート大学で講師を勤めた後、1991年から米国ウィスコンシン大学マディソン校歴史学科の助教、1995年から准教授、2001-16年に教授を務めた。その間2003年にはアメリカ芸術科学アカデミー会員に選出された。2012-16年に米国アジア研究協会理事、2013-14年は会長を務めている。2015年は京都大学東南アジア研究所およびシンガポールのISEAS ユソフ・イシャク研究所に客員研究員として滞在し、2017-19年は日本貿易振興機構のアジア経済研究所上席主任調査研究員として学術の国際交流に貢献した。

1975年のベトナム戦争終結後の混乱が続くタイで、トンチャイ氏はタマサート大学における学生運動を主導した。1976年10月5日の夕刻、氏は軍事独裁政権の復活の動きに反対して大学構内で集会を開いていた。そこを国境警備警察や右翼組織が襲い、50名近い学生が犠牲となった。「血の水曜日事件」と呼ばれるこの惨事の直後に軍がクーデターを起こし、氏は逮捕された。2年間の投獄の後に国王の恩赦によって釈放され、復学したのちシドニー大学大学院に留学した。

そこでの博士論文は『地図がつくったタイ：国民国家誕生の歴史』（2003年）として出版された。国民や国家という自明の観念が、実は地図の制作と普及によって恣意的かつ人為的に創造されてきた歴史を、タイを事例として実証的に考証し、ベネディクト・アンダーソン（福岡アジア文化賞受賞者）をはじめ、東南アジアを越えてナショナリズム研究に大きな貢献をした。同書は2004年に第16回アジア太平洋賞大賞を受賞している。また Moments of Silence: The Unforgetting of the October 6, 1976, Massacre in Bangkok（和訳：沈黙のとき）（2020年）では1976年の虐殺事件を自らの経験を振り返りながら考察することで新たな歴史学の方向性と可能性に挑んでいる。同書は2022年に欧州東南アジア人文学賞と2023年に米国アジア研究協会ジョージ・M・ケイヒン賞を受賞している。

また近年も、王政と民主主義、国民国家、法治の制度などの歴史と現状と今後についてタイ語で8冊の単著書を発表し、タイの学生や市民の政治意識や活動を支え導く存在となってきた。学術面における独創的で国際的な活躍とともに、民主主義と市民社会を発展させるためにコミットする姿勢はアジアに生きる知識人の範となるもので、トンチャイ・ウィニッチャクン氏のその貢献は「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。

# 第33回福岡アジア文化賞 大賞

## トンチャイ・ウィニッチャクン

タイ

歴史学者

ウィスコンシン大学マディソン校歴史学部名誉教授

1957年10月1日（65歳）

---

### 経歴

- 1957 タイ、バンコク生まれ
- 1981 タイ、タマサート大学修士号（歴史学）
- 1984 オーストラリア、シドニー大学修士号（歴史学）
- 1988 オーストラリア、シドニー大学博士号（歴史学）
- 1988-91 タイ、タマサート大学講師
- 1991 タイ、タマサート大学アーカイブ創業者
- 1991-95 米国、ウィスコンシン大学マディソン校歴史学部助教
- 1994-95 ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団フェロー
- 1994-97 東南アジア学会選出会員
- 1994-2010 米国、Council on Thai Studies (COTS)の共同運営者
- 1995-2001 米国、ウィスコンシン大学マディソン校歴史学部准教授
- 1997-2000 米国アジア研究協会 ハリー・J・ベンダ賞審査委員
- 2001-16 米国、ウィスコンシン大学マディソン校歴史学部教授
- 2003- 米国芸術科学アカデミー会員選出
- 2003-16 米国、ウィスコンシン大学出版the Southeast Asia Series 共同編集者
- 2008-10 米国、ウィスコンシン大学マディソン校歴史学科長
- 2009-16 *South East Asia Research*誌編集委員
- 2009-21 *Modern Asian Studies*誌編集委員兼コンサルティング編集員
- 2010-12 シンガポール国立大学アジア研究所上級研究員
- 2012-16 米国アジア研究協会理事（13-14年は会長）
- 2015 京都大学東南アジア研究所招へい研究員
- 2015 シンガポール、ISEASユソフ・イシャク研究所客員研究員
- 2016- 米国、ウィスコンシン大学マディソン校名誉教授
- 2017-19 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所上席主任調査研究員
- 2019- 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所名誉研究員
- 2022- タイ、タマサート大学、プリディー・パノムヨン国際学部客員教授

### 主な受賞歴

- 1995 ハリー・J・ベンダ賞 (*Siam Mapped: A History of the Geo-Body of a Nation*)
- 2004 第16回アジア・太平洋賞大賞（『地図がつくったタイ：国民国家誕生の歴史』）
- 2022 欧州東南アジア人文学賞 (*Moments of Silence*)
- 2023 ジョージ・M・ケイヒン賞 (*Moments of Silence*)

## 主な著作

- 『地図がつくったタイ：国民国家誕生の歴史』 石井米雄訳, 明石書店, 2003.
- *Democracy with the Monarchy Above Politics* (タイ語), Same Sky Books, 2013.
- *6 October: Unforgettable but Unable to Remember* (タイ語), Same Sky Books, 2015.
- *The Face of Royal-nationalism in Thai Historiography* (タイ語), Same Sky Books, 2016.
- *Thais/ Others, Nonthaburi, TH: Siam* (タイ語), Same Sky Books, 2017.
- *Breaking the Conventional Thai History* (タイ語), Same Sky Books, 2019.
- *The Great Transformation of Siam: the intellectual foundations of modern Siam* (タイ語), Same Sky Books, 2019.
- *The Prerogative State and the Royal Rule of Law: a history of the Rule by Law in Thailand* (タイ語), for the 17th Puey Ungphakorn Memorial Lecture, タマサート大学, 2020.
- *The Royal Nation-State* (タイ語), Same Sky Books, 2020.
- *Moments of Silence: The Unforgetting of the October 6, 1976, Massacre in Bangkok*, University of Hawaii Press, 2020.
- 『自由の限界：世界の知性21人が問う国家と民主主義』(共著) 中央公論新社, 2021.

## 学術研究賞 カターリヤ・ウム

### 【贈賞理由】

カターリヤ・ウム氏は、政治学と東南アジア研究に携わり、現代世界の課題に挑む秀逸な研究者であり、次世代の育成に力を注ぐ優れた教育者でもある。祖国カンボジアの悲劇の歴史を掘り起こし、移民や難民の人々の苦境に光を当て、武力紛争と平和構築、移民国家米国のエスニシティやアイデンティティの相克を捉える鋭い分析を行い、グローバル研究の新しい方法を提示してきた。

ウム氏は、1960年カンボジアのプノンペン生まれ。内戦下の故郷を後に、1975年外交官の父らと米国に移住。政治学を学び、カリフォルニア大学バークレー校大学院で東アジア研究の泰斗チャルマーズ・ジョンソン教授に師事し、1990年博士号を取得し、総長最優秀ポスドク・フェローにも選ばれた。1995年同校エスニック研究学部助教、2001年准教授に就任し、現在までアジア系米国人/アジア系ディアスポラ研究プログラムを率いてきた。さらに、全学の平和・紛争研究プログラム長などの要職も歴任し、2021年より社会科学院副院長を務める。

1970年代、ベトナム戦争に巻き込まれたカンボジアでは王政が倒され、混乱の中からポル・ポト政権が誕生し、未曾有のジェノサイドが引き起こされた。主著の *From the Land of Shadows: War, Revolution, and the Making of the Cambodian Diaspora* (和訳：暗影の国から—戦争、革命、カンボジア人ディアスポラの創出) (2015年) では、「なぜこの悲劇が起こったか」という問いへの答えを探しながら、生き延びた人々の声を聴き、残酷な暴力に沈黙で抵抗する姿に学び、不条理な運命に分断された国民の物語を綴る。

だからこそ、ウム氏は平和で公正な世界の実現をめざし、仲間とともに国際的な共同研究に邁進する。 *Southeast Asian Migration* (和訳：東南アジアの移民) (2015年)、 *Departures* (和訳：旅立ち) (2022年)、 *Globalization and Civil Society in East Asian Space* (和訳：東アジア空間におけるグローバリゼーションと市民社会) (2022年)、 *Générations post-réfugiées* (和訳：ポスト難民世代) (2023年) など、続々と共著を刊行してきた。

急激な変化に見舞われる時代には、未来を担う人々の育成が急務であり、ウム氏は大学キャンパスでも国籍・人種・エスニシティ・言語・ジェンダー・政治的信条などを互いに尊重し、学問の自由と発展を促す教育を目指してきた。その使命感を胸に、米国だけでなく、アジアや欧州の大学でも教鞭を執る。さらに、子どもたちにも希望を託し、ユネスコと協力して、国際協力を育む東南アジア共通史の書も出版してきた。研究とともに教育における功績に、2019年カリフォルニア大学バークレー校からの賞も与えられた。

自らの経験を踏まえ、カンボジアの内戦と大虐殺の歴史を掘り下げつつ、新たな研究領域を切り拓くウム氏の研究は、不確実性を増す現代世界において、その一層の重要性を獲得している。今日のいくつもの難題を乗り越えるために、協力して知を革新し、若者の啓蒙に尽力し、国境を越えた市民の絆を築こうとするカターリヤ・ウム氏は、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。

# 第33回福岡アジア文化賞 学術研究賞

## カタリーヤ・ウム

米国

政治学者 / 東南アジア研究者

米国カリフォルニア大学バークレー校 社会科学院副院長、同校エスニック研究学部アジア系米国人/アジア系ディアスポラ研究プログラム准教授

1960年11月14日 (62歳)

---

### 経歴

- 1960 カンボジア、プノンペン生まれ
- 1975 難民として米国へ移住
- 1982 米国、カリフォルニア大学サンディエゴ校卒業 (政治学)
- 1983 米国、カリフォルニア大学サンディエゴ校修士号 (政治学)
- 1990 米国、カリフォルニア大学バークレー校博士号 (政治学)
- 1990-92 米国、カリフォルニア大学バークレー校総長最優秀ポスドク・フェロー
- 1992-95 米国、カリフォルニア大学バークレー校エスニック研究学部アジア系米国人/アジア系ディアスポラ研究プログラム講師
- 1995-2001 米国、カリフォルニア大学バークレー校エスニック研究学部アジア系米国人/アジア系ディアスポラ研究プログラム助教
- 2001- 米国、カリフォルニア大学バークレー校エスニック研究学部アジア系米国人/アジア系ディアスポラ研究プログラム准教授
- 2003-06, 15-18, 20-21 米国、カリフォルニア大学バークレー校エスニック研究学部アジア系米国人/アジア系ディアスポラ研究プログラムコーディネーター
- 2006-19 米国、カリフォルニア大学バークレー校留学プログラムディレクター
- 2011 米国文化奨学金総長承認奨学生
- 2012-17 米国、カリフォルニア大学バークレー校平和・紛争研究プログラム長
- 2015 フランス、ソルボンヌ・ヌーヴェル大学客員教授  
早稲田大学客員研究員
- 2016 米国、カリフォルニア大学アーバイン校人文学研究科研究員
- 2016 批判的難民研究共同体の共同設立者
- 2020 米国、カリフォルニア大学バークレー校東南アジア研究センター中核教員兼実行委員会委員
- 2021- 米国、カリフォルニア大学バークレー校社会科学院副院長

### 主な受賞歴

- 1999 米国、マサチューセッツ大学ボストン校功労賞
- 2008 米国下院議員バーバラ・リー氏より特別賞
- 2010 米国下院議員アンナ・エシュー氏より特別賞
- 2011 東南アジア学生連合特別賞
- 2019 海外クメール人サミットより優秀サービス賞およびコミュニティリーダーシップ賞
- 2019 米国、カリフォルニア大学バークレー校より組織の卓越性と公平性の推進を称える総長賞

## 主な著書

- *A Dream Denied: Educational Experiences of Southeast Asian American Youth: Issues And Recommendations*, Southeast Asia, Resource Action Center, 2003.
- *The State of Asian American, Native Hawaiian and Pacific Islander Education in California* (共著), University of California Asian American and Pacific Islander American Multicampus Policy Research Program, 2010.
- "Southeast Asian American Health: Socio-Historical and Cultural Perspectives", *Handbook of Asian American Health* (文献寄稿), Springer, 2013.
- "Technology of dominance, technology of liberation: Education in colonial and postcolonial Cambodia", *Equity, Opportunity and Education in Postcolonial Southeast Asia* (文献寄稿), Routledge, 2014.
- *From the Land of Shadows: War, Revolution, and the Making of the Cambodian Diaspora*, ニューヨーク大学出版, 2015.
- *Southeast Asian Migration: People on the Move in Search of Work, Marriage and Refuge* (共編), Sussex Academic Press, 2015.
- *We all eat Rice* (共著), The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (ユネスコ (国際連合教育科学文化機関)), 2020.
- *Secrets of Spice* (共著), The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (ユネスコ (国際連合教育科学文化機関)), 2020.
- "The Wounds Of Memory: Poetics, Pain, and Possibilities in Rithy Panh's *Exile* and *Que la barque se brise*", *The Cinema of Rithy Panh: Everything Has a Soul* (文献寄稿), Rutgers, 2021.
- *Departures: An Introduction to Critical Refugee Studies* (共著), University of California Press, 2022.
- *Globalization and Civil Society in East Asian Space* (共編), Routledge, 2022.
- "Southeast Asian Mobilities and Immobilities in East Asian Space: Globalization, Migration, and the Roles of Civil Society", *Globalization and Civil Society in East Asian Space* (文献寄稿), Routledge, 2022.
- *Génération post-réfugiées: Les descendants de réfugiés d'Asie du Sud-est en France* (共編), Presses Universitaires François Rabelais, 2023.



## 芸術・文化賞 張 律（チャン・リュル）

### 【贈賞理由】

張律氏は21世紀の東アジアを代表する映画監督である。中国の朝鮮族という出自と小説家としての幅広い教養をふまえて映画監督となり、アジア各国のスタッフ・キャストと協働しながら中国・韓国・日本の地方都市を舞台に据えて、国籍・国境を越えた「東アジア映画」としか呼びようのない独創的な作品を創り続けている。

張氏は1962年、中国の吉林省延辺で朝鮮族3世として生まれた。文化大革命期に父親が逮捕され、幼い氏は母親とともに農村に下放された。この時期に韓国語に加えて中国語も使えるようになったという。延辺大学中国文学科を卒業し、同大学で中国文学の教授となったのちに北京に拠点を移して小説家として活動する。

映画監督としては遅咲きで、2004年に長編第一作『唐詩』を発表。翌05年の『キムチを売る女』でカンヌ国際映画祭批評家週間ACID賞を受賞する。中国の辺境で生きる朝鮮族のシングルマザーを描く同作には、時事的な問題への関心と少数民族としての経験や知見が色濃く反映されている。2010年代に入ると韓国の著名な俳優やスタッフと組み、古都・慶州で男女の出会いと別れが展開する『慶州（キョンジュ） ヒョンとユニ』（2014年）、ソウルを舞台に脱北者ら3人の男性が中国から来た朝鮮族の女性に想いを寄せる『春の夢』（2016年）といった話題作を次々に発表し、カンヌ、ベルリン、釜山など主要映画祭に入選を果たしていく。

そして現在までのキャリアの集大成といえる三部作『群山：鷺鳥を詠う』（2018年）、『福岡』（2019年）、『柳川』（2021年）を相次いで発表。これらは韓国・中国に日本を加えた多国籍の映画人が協働して創り上げた全く新しい「東アジア映画」とすると同時に、当初は映画祭への参加で訪れた福岡との交流が深まる中でアイデアが膨らみ、企画から撮影に至る過程で多くの市民・県民が関わって制作された点で、福岡にとっても国際文化交流の成果として意義深い三部作である。いずれも後悔や心残りを抱えた者らがある町を訪れ、特有の風景が移ろい、緩やかな時間が流れるなか、土地に馴染みながら人生と再び向き合っていく姿を描いている。

張作品の大きな特徴は、朝鮮族や脱北者など社会的マイノリティーへの眼差しに加えて、現実と夢、現在と過去、生と死といった一見対立する二項を往還する巧みな語り口にあり、近年ますます自在さを増している。また東アジアの近現代史に係る事象がしばしば登場するとともに、唐代の漢詩、福岡で没した詩人・尹東柱（ユン・ドンジュ）の作品から日本の童謡まで様々な詩歌が挿入されて豊かな情緒を醸し出している。劇中の言語の扱いもユニークで、韓国語、中国語、日本語が飛び交いながら、異なる言語での会話が難なく通じ合う自由闊達な演出が施され、異文化の融和や共生のビジョンを感得することができる。

2023年には、北京を舞台にした最新作『白塔之光』（2023年）がベルリン国際映画祭コンペティションに入選し、一段とスケールアップした姿で張氏はポスト三部作の一步を踏み出した。

張律氏は、中国・韓国・日本の映画人との越境的なコラボレーションを通じて、その作品世界においても異文化の融和や共生のビジョンを表現し、比類なき「東アジア映画」と呼ぶべき作品を発表し、世界的に高く評価されている。その貢献は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

# 第33回福岡アジア文化賞

## 芸術・文化賞

チャン・リュル

張 律

中国

映画監督

1962年5月30日生 (60歳)

---

### 経歴

- 1962 中国、吉林省延辺朝鮮族自治州の延吉市生まれ
- 1986 中国、延辺大学卒業 (中国文学科)
- 1987 延辺大学中国文学教授
- 1986 北京に拠点を移し、小説家として活躍
- 2001 『11歳』で初めて短編映画の監督を務める
- 2004 『唐詩』で初めて長編映画の監督を務める
- 2012-20 韓国、延世大学校コミュニケーション大学院映像学特任教授・延世大学校グローバル人材大学所属教授

### 主な受賞歴

- 2005 第58回カンヌ国際映画祭批評家週間ACID賞 (『キムチを売る女』)  
イタリア ペサロ国際映画祭グランプリ  
第10回釜山国際映画祭ニューカレンツ賞
- 2006 南アフリカ ダーバン国際映画祭最優秀監督賞 (『キムチを売る女』)  
フランス ウズー国際映画祭グランプリ  
ベルギー シネマ・ノヴォー映画祭グランプリ
- 2010 第60回ベルリン国際映画祭ジェネレーション部門14 Plus (『豆満江』)  
第15回釜山国際映画祭NETPAC賞
- 2014 第15回釜山映画評論家協会賞大賞 (『慶州(キョンジュ) ヒョンとユニ』、『風景』)
- 2015 フェロー諸島映画祭2015 ゴールデン・ムーン賞(最優秀監督賞) (『フィルム時代の愛』)
- 2017 第18回釜山映画評論家協会賞審査委員特別賞 (『春の夢』)
- 2019 第39回韓国映画評論家協会賞 韓国映画評論家協会10選 (『群山: 鶯鳥を咏う』)
- 2021 第28回ヴズール国際アジア映画祭 最優秀賞 (『柳川』)

### 主な作品

- 『11歳』2001. (監督)
- 『唐詩』2004. (監督・脚本・制作協力)
- 『キムチを売る女』2005. (監督・脚本)
- 『風と砂の女』2007. (監督・脚本)
- 『重慶』2008. (監督・脚本)
- 『イリ』2008. (監督・脚本)
- 『豆満江』2010. (監督・脚本)
- 『慶州(キョンジュ) ヒョンとユニ』2014. (監督・脚本)

『風景』 2013. (監督)

『フィルム時代の愛』 2015. (監督)

『春の夢』 2016. (監督・脚本)

『群山：鷺鳥を詠う』 2018. (監督・脚本)

『福岡』 2019. (監督・脚本)

『柳川』 2021. (監督・脚本)

『白塔之光』 (中国語題) 2023. (監督・脚本)